

油津商店街

(油津商店街振興会)

宮崎県日南市

！取組のポイント

商店街の再生を託す人材を日南市が公募。強いリーダーシップと行動力により、衰退した商店街が若者がチャレンジする新しいまちに生まれ変わる。

取組の背景

商店街の衰退傾向が顕在化

かつて宮崎県南地区最大の市街地であった油津商店街は、空き店舗や空き地の増加、歩行者通行量や小売販売額の減少などの衰退が見られ、また、隣市などへの買い物客の流出など、環境は厳しさを増している。魅力ある商業環境や、居住環境の向上、日南市の玄関口としての魅力の形成やアクセスが課題といえるが、何よりもそのような状況が長く続いたことで市民の意識の中から「商店街」という存在が薄れてしまっていることが大きなマイナス要因と考えられる。現在、日南市中心市街地活性化基本計画（2012年11月～）に基づき、商店街の再生、市の商業活性化に向けて取り組んでいる。

少しずつ賑わいを取り戻してきた油津商店街



取組の内容

サポマネが中心となり、多数の取組に挑戦

日南市は、2013年4月に中心市街地活性化事業の一環として、テナントミックスサポートマネージャー（以後、サポマネと記載）を全国に向けて公募し、曖昧な目標設定ではなく明確なノルマとして「商店街に4カ年で20店舗の誘致」を課した。審査の結果、333人に登った応募者の中から、九州で複数のまちづくりコンサルティング業務の実績を持つ木藤亮太氏（当時38歳）が選ばれた。

木藤氏は家族とともに商店街の近くに移り住み、2013年7月1日からサポマネとして活動を開始。着任後すぐに、大人や子どもが集い、語り合う場として、空き店舗を活用した「Yotten（よってん）」をリニューアルオープンした。また、空き地の活用策として「油津アーケード農園」を設け、Yottenに集まる子どもたちが大根や人参の植え付けや収穫を行い、非常に話題を呼んだ。

その後、七夕祭り、ファッションショー、50mボウリング大会など一風変わった小さなイベントを繰り返しながら市民の関心を集め、復活が望まれていた「土曜夜市」を約20年ぶりに開催、これまで商店街に全く興味がなかった人々が商店街に参加するきっかけが生まれていった。

2014年3月には、商店街再生の事業に継続性を持たせるために株式会社油津応援団を設立、かつて市民の集いの場だった喫茶店をリノベーションし、「ABURATSU COFFEE」（カフェ）を開店させた。その後、豆腐販売店のプロデュースも行った。

中心市街地活性化基本計画において計画していた、行政主体の多世代交流施設と、民間主体の屋台村の建設と運営を、株式会社油津応援団が一体的に行う構想を掲げ、国の補助を受け、2015年11～12月に多世代交流モール（油津Yotten、あぶらつ食堂・4店舗、ABURATSU GARDEN・6店舗）が開業した。これらは、長年利活用に苦慮していたスーパー跡の大きな空き店舗を地元の杉を用いてリノベーションし、広い空き地にコンテナを用いた店舗を並べるという手法が特徴的である。デザイン性の高い空間をつくることで出店意向を集め、多世代のお客さまが集い、交流できる場所となっている。

商店街再生のきっかけとなった「ABURATSU COFFEE」



取組の成果

新しい店舗や空間が増え、それをきっかけに商店街が変化し始めた

「Yotten」や「ABURATSU COFFEE」を拠点に市民参加のきっかけをつくり、商店街の空気感を時間をかけて変えてきたことで、多世代交流モールのオープン後は、様々な市民が買い物や食事を楽しみ、イベント企画を持ち込み交流施設を利用するなど、昼夜問わず多くの来街者で賑わっている。

また、その後も出店意向の問合せが増え、さらにはIT関連企業の誘致先として空き店舗が活用されることにもつながってきた。

商店街や会員においても、サポマネ・木藤氏の就任後から徐々に参加が広がる市民に後押しされ、可能性を実感し、これまで以上に対話や議論が活発になるなど、主体的な動きに変化してきている。

実施体制

本事業においては、市から委託を受けたサポマネ・木藤氏を中心となって、現場の店主や市民、市外からの応援者とともに、事業計画立案や実施を行っている。

一方でテナントミックスサポート事業委員会においては、木藤氏の活動の方向性や評価などをサポート、チェックしている。民と官の連携によって、基本的な長期計画を柔軟に修正しつつ、適したタイミングで適した内容の事業実施を行っていることが特徴となっている。

商店街再生に関わる官民一体となった様々なメンバー



キーパーソンからのコメント

日南市テナントミックス
サポートマネージャー
木藤 亮太



5年、10年後のまちづくりを考える

常に関係者間で交わしている言葉は「これまでになかった商店街再生に取り組もう」です。力を入れているのは、①まちの応援団づくり、②市民が応援したくなるコンテンツづくり、③公金に頼り続けられない仕組みづくり、④まちの後継者育成の4点です。他所から来た人材がまちに住んでとけ込み、コミュニケーションの土台を築き、地域住民と同じ目線で対話を繰り返す。市民が知らないうちに巻き込まれ、まち（商店街）が生まれ変わっていく。商店街のための商店街再生ではなく、小さな地方都市の今後5年、10年のまちづくりがどうあるべきかを常に考えながら取り組んでいます。

今はまだ基礎が築かれたに過ぎない

サポマネの存在や4力年で20店舗という数値目標が取り沙汰されますが、決してそこがゴールではありません。新規出店やイベントの復活は進んでいますが、それが最終目標ではなく、新旧の店主がどのようにコミュニティをつくり、まちを運営していくのがこれからの大きな課題です。今はその基礎が築かれたという段階。これまでに関わってきたそれぞれの主体が、対話を繰り返し、関係をつくっていく。歯が欠け落ちていた歯車が、様々な市民の関わりによって再生し、「もう外部人材の力に頼らなくても大丈夫」と歯車が再び自走し始めることが大きな目標です。

基本データ

所在地	宮崎県日南市岩崎
人口	約5万人(日南市)
電話/FAX	080-9054-4339 (油津Yotten)
関連URL	http://www.aburatsu-o.com
会員数	31名
店舗数	34店舗(買回り品小売店13、最寄品小売店3、飲食店11、サービス店4、その他3)
商店街の類型	地域型商店街
主な客層	家族連れ、高齢者、学生・若者

商店街概要

日南市には飫肥城下町や鵜戸神宮などの観光地、自然、農林水産物などの地域資源も豊富で、さらには、外国クルーズ船の来航なども相まって、年々観光入込客数は増加している。当商店街のある中心市街地は港とJR油津駅を結ぶ動線上に形成され、それぞれから概ね1km圏内で、住居系と商業系の用途地域から構成されている。区域内に立地する2つの大型店(日南山形屋、日南サピアショッピングセンター)と、3つの商店街(油津一番街商店街、岩崎商店街、岩崎2丁目商店会)などに加えて、スーパーとむら油津店が開店し、商業集積が高まっている点が特徴である。